

hap·py

→ go

→ luck·y

【ハッピー・ゴー・ラッキー】

形 〈人の行動が〉のんきな、気楽な。

名 10代におくるブックガイド。

はぴ

5

号

2009年7月発行

【編集・発行】

さいたま市立中央図書館

さいたま市浦和区

東高砂町 11-1

TEL 048-871-2100

FAX 048-884-5500

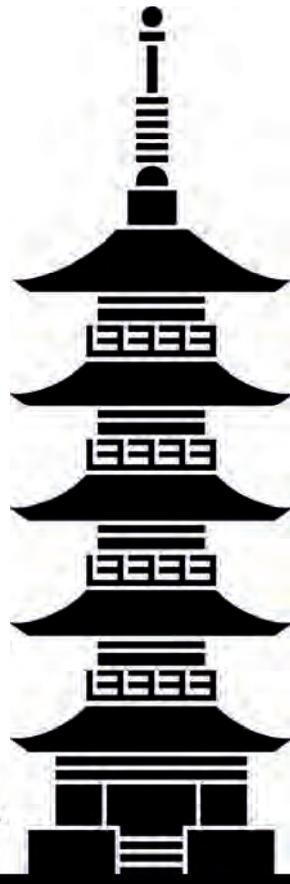
HP <http://www.lib.city.saitama.jp/>

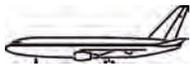
携帯 HP



旅

ヲ読ム



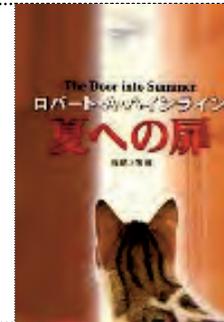


『深夜特急 第1便～第3便』 沢木耕太郎作 新潮社 1986～1992年

乗合いバスでデリーからロンドンまで行くためにインド行きチケットを買った「私」は、途中立ち寄った香港の熱気あふれる街に魅せられ、その後も気の向くまま各国を放浪する。インドで見た鮮烈な夕焼け、死者を燃す煙。トルコとイタリア、不思議な縁を持った二人の女性との巡り会い。さまざまな出会いと別れを繰り返し、冬のヨーロッパへ足を踏み入れたときは、いつの間にか1年を超える旅になっていた。1970年代に作者自身が旅した経験をもとに綴った旅行小説。昨年11月発行の最終便『旅する力』も併せて読むべし。

『夏への扉』 ロバート・A・ハインライン作 福島正実訳 ハヤカワ文庫 1993年

家事ロボットの発明に成功、美人秘書とも婚約し有頂天だったぼく。しかし彼女は親友とグルだった！冷凍睡眠に送り込まれ目覚めたのは30年後の2000年。発展した社会、便利な生活。でも、相棒猫ピートも仲良しのリッキーも何もかも失った…。技術者として働き始めたぼくは、数々の発明品を見て心おどらせるが、ある矛盾に気づき悩む。そんな時同僚がもらったタイムマシンの話。未来か過去を選べない片道切符という不完全なタイムマシン。だが真実を知り、大切なものを取り戻すため、ぼくは運命をかける！1957年に書かれたSFの名作。



『上と外 1～6』

恩田陸作 幻冬舎文庫 2000～2001年

別れた家族4人が再会し、出かけた先は中南米の某国。遺跡を見るために乗ったヘリコプターでクーデターに巻き込まれ、中学生の錬と妹はジャングルに投げ出された！彼らが迷いながらたどり着いた先で見たものとは…。

『猫の帰還』

ロバート・ウェストール作 坂崎麻子訳 徳間書店 1998年

第二次世界大戦中のイギリス。黒い雌猫ロード・ゴートは、出征した主人を探して、疎開していた田舎の家を飛び出した！戦争に傷つき、苦しむ人々に、勇気と幸せと奇跡を運びながら、彼女の旅は続く。

『めぐりめぐる月』 シャロン・クリーチ作 もきかずこ訳 偕成社 2005年

アメリカ・インディアンの血をひく13歳の少女サラは父と二人暮らし。家を出たまま帰らない母を待ち続けていた。ある日、サラは祖父母に誘われて、母の住む町を目指し、車でのアメリカ横断の旅に出る。やがて、物事にはさまざまな視点があることに気づき、少しずつ成長していく。そして、旅の終わりにすべての物語の断片がぴたりと繋がり、ついに母の失踪の真実が明らかになる。それはサラの新たな生活の始まりでもあった。



『メジルシ』 草野たき作 講談社 2008年

離婚したい母、離婚したくない父、一人娘の双葉。中学最後の春休みに最後の家族旅行。行く先は北海道。旅が終われば、家族はバラバラになる。

『週末ジャパンツアー』 杉浦さやか作 ワニブックス 2007年

カラフルなイラストと手書きの文字でつづった、日本国内を旅した記録。眺めるもよし、出かけるもよし、の1冊。あなたも自分だけの「旅の手帖」を作ってみませんか？

『いま生きているという冒険』

石川直樹作 理論社 2006年

高校2年、旅に出た。所持金は5万円。荷物は黒い小さなリュックサックだけ。目的地はインド。

2001年に最年少で世界7大陸最高峰登頂を達成した若き冒険家による旅の記録。



ほんの
ひととき。



えほんで旅する

くアンデルセンの国・デンマークを
旅する6巻をご紹介します>

絵
を
楽
し
む

繊細なタッチと美しい色
彩を楽しんでみる

登場人物を追いかける

見聞きごとに登場する旅人や、何處も出てくる登場人物を探して、いっしょに旅
をしてみる



『旅の絵本 I～VI』

安野光雅作 福音館書店 1977～2004年

この絵本には字がありません。ただ、旅人が世界各国を旅する風景が描かれています。でも、細かく描かれた絵のすみずみをよ～く見てみると…そこにはさまざまな発見！楽しみ！驚き！が隠されているのです。

1巻は中部ヨーロッパ。以下イタリア、イギリス、アメリカ、スペイン、デンマークが舞台になっています。

※改訂された2巻と今回取り上げた6巻には、作者安野光雅さんの詳しい解説がついています。

奥深く描きこまれた絵本なので、もっともっと楽しむ方法がありますよ。

童話の世界を楽しむ

『親指姫』『マッチ売りの少女』『人魚姫』などなど、絵の中に散りばめられた童話の場面を探してみる

建物を楽しむ

実際の風景の通りの建物が丁寧に描かれています。どこの何という建物が当ててみる

風俗を楽しむ

結婚式、お祭り、遊び、暮らしぶりなど、世界各国の風習を踏まえた場面を楽しむ。



旅に出たくなる
夏の9冊

誰にも急かされないから自分の好きな速度で進めばいい

言葉の通じない場所へも、過ぎ去った過去にも、ファンタジーの世界にだって出かけていける

ページを開いて、さあ旅に出よう

次回
予告

6号(10月発行)のテーマは「仕事」

